

北海道地震／被害確認に追われる企業 通信網打撃、操業困難

(2018/9/7 05:00)

■ 「余震の不安」設備を点検

北海道で6日発生した地震による大規模停電は、通信サービスに一部不具合を生じさせたほか、生産拠点を操業停止させるなど、産業界に影響を及ぼしている。

一部の地域で不通となっていたNTT東日本だが、ほぼ復旧した。

NTTドコモやKDDI、ソフトバンクは、一部地域で携帯電話が使えなかったり使いにくい状況となった。

日産自動車は、北海道の取引先部品メーカーの一部が被災した。具体的な社数や部品の種類などは不明だが、当面の完成車生産計画に影響はないという。また、自社の北海道陸別試験場（北海道陸別町）の従業員に6日の自宅待機を指示した。被害はないが、現地の電力事情を考慮した。SUBARU（スバル）は北海道で発生した地震の影響で6日、北海道スバル（札幌市西区）直営の販売店を休業した。いすゞ自動車の子会社でエンジン部品を製造するいすゞエンジン製造北海道（北海道苫小牧市）も停電のため、工場の稼働を停止した。

建設機械レンタル大手のカナモトは公共交通機関で通勤する社員は自宅待機などで、出社できた社員らで営業した。発電機や油圧ショベルなどを自治体や建設会社などに貸し出した。

エア・ウォーターは北海道地震による停電で道内の各種ガスの供給に影響が出ている。6日13時時点で、液化ガス製造プラントが停止。医療用ガスは在宅で酸素濃縮装置を使う停電中の患者向けに携帯用の酸素ボンベで対応している。液化石油ガス（LPガス）の供給は、地震でガスメーターが遮断された家や事務所に保安員が順次訪問し、確認作業を行っている。

京セミ（京都市伏見区）は、光半導体デバイスを製造する恵庭事業所（北海道恵庭市）と上砂川事業所（同上砂川町）の操業を停止した。道内全域で発生した停電を受けた措置。設備自体に被害はない模様だ。停電が解消され次第、操業を再開する予定。

内田鍛工（UTK、三重県四日市市）グループで電力会社向けの架線金具を生産している北海道内田鍛工（北海道栗山町）は、地震による停電で復旧のめどが立たないことから6日を臨時休業にした。



時計の電子表示が消えた「さっぽろテレビ塔」（札幌市中央区）

日本製紙は白老事業所（同白老町）、勇払事業所（同苫小牧市）の2工場が震災発生と同時に生産が停止した。生産設備や発電などの動力設備に大きな被害はないが、状況を見ながら再開を判断する。旭川事業所（同旭川市）は動力設備を除いて停止。6日中に再開へ向けた準備作業に入った。釧路工場（同釧路市）も定期点検中だったため道内4工場すべての生産が停止したが、当面は在庫で対応する。



北海道庁で開かれた災害対策本部の会合

王子ホールディングスも道内の大規模4工場が生産停止中。いずれも生産、動力設備とも大きな被害はなかった。停電が解消され次第、再開を判断する。

帝人ファーマ（東京都千代田区）では、道内の患者の安否を調査。患者が使用する酸素吸入器や睡眠時無呼吸症治療器の故障の有無、酸素ボンベの残存容量などについて、代理店と協力して確認作業を進めている。

非鉄金属大手のうち、JX金属や住友金属鉱山、三菱マテリアルはグループ会社の工場が道内に立地する。停電のため、6日午前の時点で操業を止めているものの、設備面の目立った被害は確認されていない。

JX金属グループで産業廃棄物処理や金属リサイクルを手がけるJX金属苫小牧ケミカル（北海道苫小牧市）は、有害物質の漏えいがないことを確認。「余震に注意しつつ設備の細かい点検を進めている」（JX金属広報・CSR部）。住友金属鉱山グループで、電子部品用の結晶材料などを製造する住友国富電子（同共和町）も同様に、操業再開に向けて設備の細部の調査を進めている。

三菱マテリアルグループでは、家電リサイクル事業を担う北海道エコリサイクルシステムズ（同苫小牧市）や、石炭・砕石事業などを手がける北菱産業埠頭（札幌市中央区）が道内に立地。両社とも停電や交通網を考慮し、従業員に自宅待機を命じた。

三井不動産は停電のため「三井アウトレットパーク札幌北広島」（北海道北広島市）と「三井ガーデンホテル札幌」（札幌市中央区）が休業。三菱地所はマルヤマクラス（同）は停電のため、非常用電源を持つ一部店舗のみ営業。ミサワホームは本社と現地に対策本部を立ち上げ。揺れが強かった地域に建つ自社物件7000軒について、被害状況を確認している。

(2018/9/7 05:00)